

関連会議フローの改善点

【現状】
重層的支援のチーム会議を設置し、原則1回/月の頻度で定例開催。

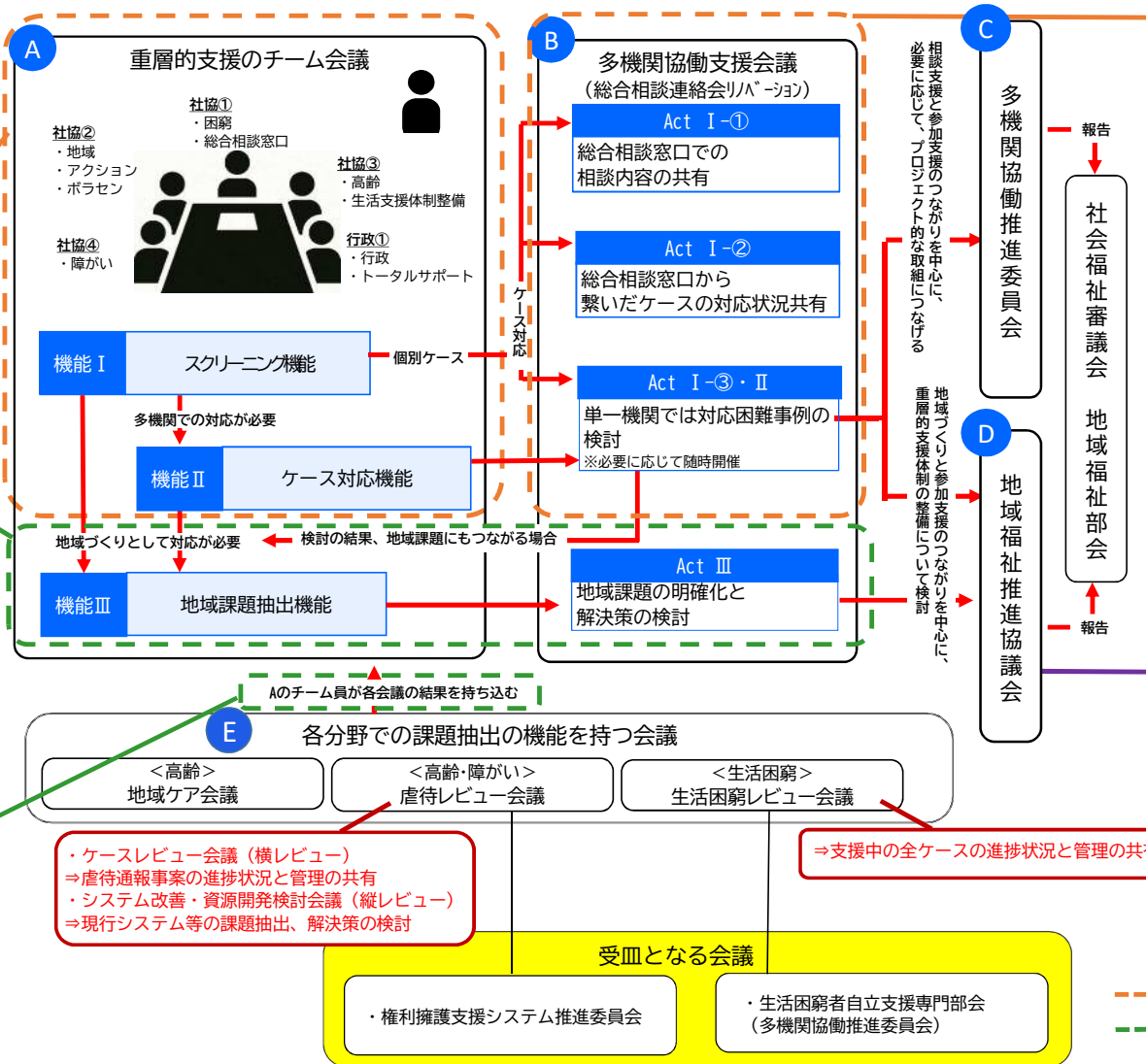
【令和5年度の取組】
全18件（新規14件・R4継続4件）のケースを検討。うち7件を多機関協働支援会議へ展開（随時型：5件、定例型：2件）。事業の趣旨理解促進を目的とした研修会を実施（3回/年）

【課題】
参加支援を踏まえた地域課題検討（地域づくり）に関する検討には至っていない。（個別事例検討に終始している）

【今後の方向性】
チーム会議での取扱件数を増やし、スクリーニング機能やケース対応機能の強化を図るとともに、多機関協働支援会議への課題の上げ方を整理していく。また、チーム会議だけでなく、各分野の会議からも地域課題やニーズを抽出することで、参加支援や地域づくりへとつなげていく。

【課題】
持ち込まれる内容が一部の分野に限られる。

【今後の方向性】
各会議での抽出が可能か改めて点検する。



【現状】
総合相談連絡会をリバージョンし、多機関協働支援会議として、3か月に1回開催（定例型）。また、取扱ケースの緊急性に応じて随時型（Act I-③・Ⅱ）を開催。

【令和5年度の取組】
随時型5件は接近困難、多問題複合世帯等の所謂「支援困難事例」であった。対応困難事例について、随時開催により、タイムリーに関連する機関間で情報共有や支援の方向性の検討ができた。定例型においては、各機関での関わり方を検討し、参加支援に焦点を当て、重層的支援の土壌づくりを行った。

【R6～】
より「地域づくり」に目を向けて考えられる協議体へ改編
名称：福祉のまちづくり委員会

--- 一定取り組めた
- - - 取組まてに達していない